

Home

～長洲町に生まれて～

この町で生まれ、この町で育ち、そして今、故郷・長洲町を想う…。このコーナーでは、様々な分野の第一線で活躍する長洲町出身の人を紹介します。

世界で活躍する サッカー選手を育てたい

鹿島アントラーズジュニアユースコーチ

折地区出身

中村 幸聖さん(30歳)



PROFILE なかむらこうせい 1981年4月5日生まれ。

折地区出身。六栄小、腹栄中、大津高校卒業後、2000年鹿島アントラーズに入団、03年モンテディオ山形、05年アルビレックス新潟に移籍し、06年引退。07年からは、指導者として鹿島アントラーズジュニアコーチ、09年同ジュニア監督を歴任し、今年2月から同ジュニアユースコーチに就任。中学生の育成に日々励んでいる。



▲長洲町に帰って来るのは年に1度。時間を見つけては、地元子どもたちのためにと、サッカーの指導にあたる。

1月4日から3日間、駒沢体育館（東京都）で行われた、「バーモントカップ第21回全日本少年フットサル大会」。今年1月まで鹿島アントラーズジュニアの監督を務めていた中村幸聖さん（現・ジュニアユースコーチ）は、小学生のフットサルチーム日本一を決める同大会で、チームを3位入賞に導いた。

物心ついた頃からサッカーを始め、小・中学校ではサッカー部に所属。「部活が終わってからも一人公園で練習していた」と人一倍の努力家だ。サッカーの名門、大津高校在学時には、熊本国体の強化選手に選ばれ、海外遠征も経験した。

卒業後は、鹿島アントラーズに入団。2回の移籍を経験し、7年間の現役生活を終えた後は、指導者として古巣に戻った。

指導される側から指導する立場に。「現役の時より、責任は重くなりました。子どもたちの人生を背負っていますからね」と気を引き締める。子どもたちの中には、放課後約2時間かけてスクールに通う生徒もいる。「向上心を持って努力する生徒と接するこ

とで、自分の方が教えてもらうことの方が多いです」と笑顔を見せる。

「コーチの役割は、技術を教えるだけではありません。選手が成長できる環境を作ることも大切」と話す。「大会に出場し、国内外のいろんなチームと交流する機会を与えてあげるのには、コーチの役目。どんな相手でも動じない強い精神力を培ってほしい」と選手への思いは誰よりも強い。

15年間を過ごした故郷。「今の自分があるのは、これまで出会った人たちが助けてくれたおかげです。自分にし

かできないことを通して、町に恩返しをしたい」と思いを語る。

昨年の東日本大震災では、「自宅近くまで津波が襲ってきた」という。幸い難は逃れたものの、グラウンドは1ヵ月ほど使用不能に。

「震災を経験し、故郷への思いは強くなりました。目標に向かって努力できる幸せも、より一層感じています」。

夢は、「世界に通用する人材を育てること」

目標は常に世界へ。明日の日本代表が育つ日を夢見て、今日もグラウンドに立つ。